

「福島 of 土壌科学者たちの戦い」というセッションに参加できたことは、大変嬉しく光栄でした。この巨大な課題に取り組むために、日本の土壌科学のコミュニティで行われている活動に大変感銘を受けました。その献身的な取り組みと、斬新で実践的なアプローチには目を見張るものがあります。最も興味深く、感動的だったのは、科学者やボランティアのさまざまなグループが、地域住民と協力しながら一丸となって取り組んでいる姿でした。このように大きく、複雑で、難しい問題であるにもかかわらず、タンパでのセッションは、この問題に取り組んでいる日本の知的資源の大きさを証明するものだった。私は、日米の学生や科学者が、さまざまな修復戦略が用いられているのを「見学」し、関係するさまざまなグループと交流する機会を提供できるような交流が、今後も継続的に行われることを願っている。このセッションは、福島の土壌のどこに汚染が存在し、土壌中の放射性Csの輸送がどのように行われているかを見る、論理的な出発点であったと思う。土壌化学や土壌鉱物学のコミュニティとの継続的な連携は有益だと思います。例えば、タンパで行われた別のセッションでは、土壌中のK固定に焦点が当てられており、そこで発表された情報は、福島のCs問題に直接関連するものでした。本セッションに参加する機会をいただき、ありがとうございました。

DeepL. com（無料版）で翻訳しました。